

災害時、園児の安否実況

浜松の幼稚園 Webテレビ導入

タブレット端末とスマートフォンでWebテレビの試験放送を行う関係者

浜松市北区三ヶ日町の三松幼稚園



保護者に一斉配信

大規模災害発生時の保護者との連絡手段として、浜松市北区三ヶ日町の三松幼稚園が、スマートフォンやタブレット端末で園児の映像や音声配信し、保護者に園児の様子をリアルタイムで伝えるWebテレビ放送システムを導入した。県内のIT企業が開発した放送技術で、電話の不通や防災拠点の被災といった東日本大震災で浮き彫りになった課題に対応し、保護者の不安を解消しながら子どもの命を守る。(細江支局・柿田史雄)

Webテレビ放送のシステム(災害発生時)



一対一の電話連絡に対しWebテレビ放送は、スマートフォンなどに専用アプリをインストールすることで、全ての保護者が園からの緊急連絡を一斉に受けられる。クラウド型放送システムのため、

ネットに接続できれば職員はあらゆる場所からタブレット端末などで子どもの安否をリアルタイムで確認できる。開発した「スカイネットワーク」(静岡市清水区)の細田秀雄社長は「園舎以外の場所でも放送が可能。園児の避難誘導と並行して保護者に状況を伝えられる」と説明する。

同園は、リレー式で保護者に情報を伝える電話連絡網を活用していた。しかし、定期的を実施する災害を想定した園児の引き渡し訓練で、保護者全員

に連絡が行き渡るまでに長時間掛かっていたことから、Webテレビ放送の導入を決めた。3月に試験放送を行い、今月から本格的に運用を開始。須賀晶俊園長(38)は「誰が情報発信するかなど、職員の役割分担を決めた上で訓練を重ね実効性を高めたい」と話した。

保護者も期待を寄せた。子ども2人を通わせる同園PTA会長の久米加奈さんは「災害時は自分自身や家の安全も気に掛けないといけない。こちらから連絡しなくても、子どもの様子を教えてください」と話した。